

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】

平成25年度における準備

- ・ 本プロジェクトは日本では北海道大学、酪農学園大学、東京大学、タイではカセサート大学、チュロンコン大学が参画し、学生の派遣と受け入れにより単位互換を行い、アジア地域の獣医学に貢献する人材の育成を目指すものである。
- ・ 平成25年度には学生の派遣および受け入れのための国際運営委員会や国内運営委員会を開催し、単位互換、単位認定、派遣学生の選定方法、学生のサポート、フォローアップ、引率教員、現地での滞在に関わる条件、など様々な課題を検討した。また日本及びタイの現地をお互いに視察し、学生の修学や生活環境に関する理解を深めた。そのため、平成26年度には速やかに学生の派遣と受け入れを実施することができた。
- ・ また、当該プロジェクトの拠点の体制構築を行った。国際連携推進室に学部担当を設置し、2名の事務員を雇用し、庶務及び会計を担当することで当該プロジェクトに関わる事務を一括して行うこととした。雇用にあたっては英語の堪能な人材を雇用し、当該プロジェクトに関するシラバスだけではなく、事務手続きに関わる一切の書類は、日本語はもちろん英語でも行っている。
- ・ 平成26年3月には当該プロジェクトのキックオフミーティングをタイにおいて開催し、学生の派遣と受け入れに関する最終確認を行うとともに、当該プロジェクトを広くアピールした。

平成26年度における学生の派遣および受け入れ

- ・ 以上の単位互換の環境や体制の構築を経て、平成26年度は日本とタイ間での学生の派遣および受け入れを行った。当初予定より多い、26名の日本からの派遣と25名のタイからの学生の受け入れを行った。学生の選定は最終的には国際運営委員会において認定された。派遣および受け入れ前には学生への説明会を数度にわたり開催し、学生らの修学意欲の向上と理解に努めた。学生の派遣および受け入れの期間は約3か月であり、タイに日本人学生が派遣されている間は常に教員が現地に滞在し、学生のサポートを行った。また、タイ学生が日本に滞在する期間には定期的に引率教員がタイから派遣されたほか、日本にカセサート大学の教員が滞在し、当該プログラムのサポートを行った。
- ・ 日本では小動物を中心とした臨床分野におけるクリニカルローテーションと基礎系の研究分野のラボローテーションを実施し、最先端の獣医医療をタイ学生に提供した。平成26年度は、北海道大学、酪農学園大学、東京大学における受け入れ学生は11-20単位（UCTS）の単位を認定された。
- ・ タイでは小動物の一時診療、野生動物診療、また家畜として大動物だけではなく、ブタやニワトリなど、日本では実習の難しい動物種の臨床教育も実施することができた。また、現在、日本国内で充実する必要があることが指摘されている魚病学に関する臨床実習も実施することができた。これらの科目はいずれもタイでこそ実施できる内容となっている。
- ・ 学生の派遣および受け入れの終了後、国内運営委員会及び国際運営委員会を開催し、平成26年度のプログラム実施に関する課題について情報共有および改善の機会を設け、平成27年度のプログラム実施に結びつけることができた。

**【本事業における中間評価までの交流学生数の実績】**

平成25年度				平成26年度			
受 入		派 遣		受 入		派 遣	
計 画	実 績	計 画	実 績	計 画	実 績	計 画	実 績
0人	0人	0人	0人	25人	25人	25人	26人